

## 別紙2

## 三重県 中央会情報連絡員報告総括表 ( 令和7年12月 )

情報連絡員数	40	名	回答者数	40	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	2	2	0	1	3	0	2	2	0	0	2	2	1	1	2	0	3	1	1	3	0	0	3	1	0	3	1
	繊維工業	1	0	2	0	3	0	1	2	0	0	2	1	0	2	1	0	1	2	1	1	1	0	2	1	0	1	2
	木材・木製品	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	紙・紙加工品	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	印刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	0	3	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0
	鉄鋼・金属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	一般機器	1	0	2	2	1	0	2	1	0	0	3	0	0	1	2	0	1	2	0	2	1	0	2	1	0	2	1
	電気機器	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	輸送機器	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
	その他																											
小計		6	7	7	3	15	2	8	12	0	0	16	4	2	9	9	0	14	6	3	12	5	0	15	5	0	13	7
非製造業	卸売業	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1				0	2	0	0	2	0
	小売業	2	2	2	0	5	1	2	4	0	0	5	1	0	4	2	0	4	2				0	6	0	0	4	2
	商店街	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0
	サービス業	2	2	0				1	3	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1				0	4	0	0	3	1
	建設業	0	3	1				1	3	0	0	3	1	0	3	1	0	3	1				0	3	1	0	3	1
	運輸業	0	1	0				1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1				0	1	0	0	1	0
	その他	0	2	0				0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0				0	2	0	0	2	0
小計		4	13	3	0	8	1	6	14	0	0	17	3	0	15	5	0	14	6				0	19	1	0	16	4
合計		10	20	10	3	23	3	14	26	0	0	33	7	2	24	14	0	28	12	3	12	5	0	34	6	0	29	11

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年12月～令和7年12月)

三重県中小企業団体中央会

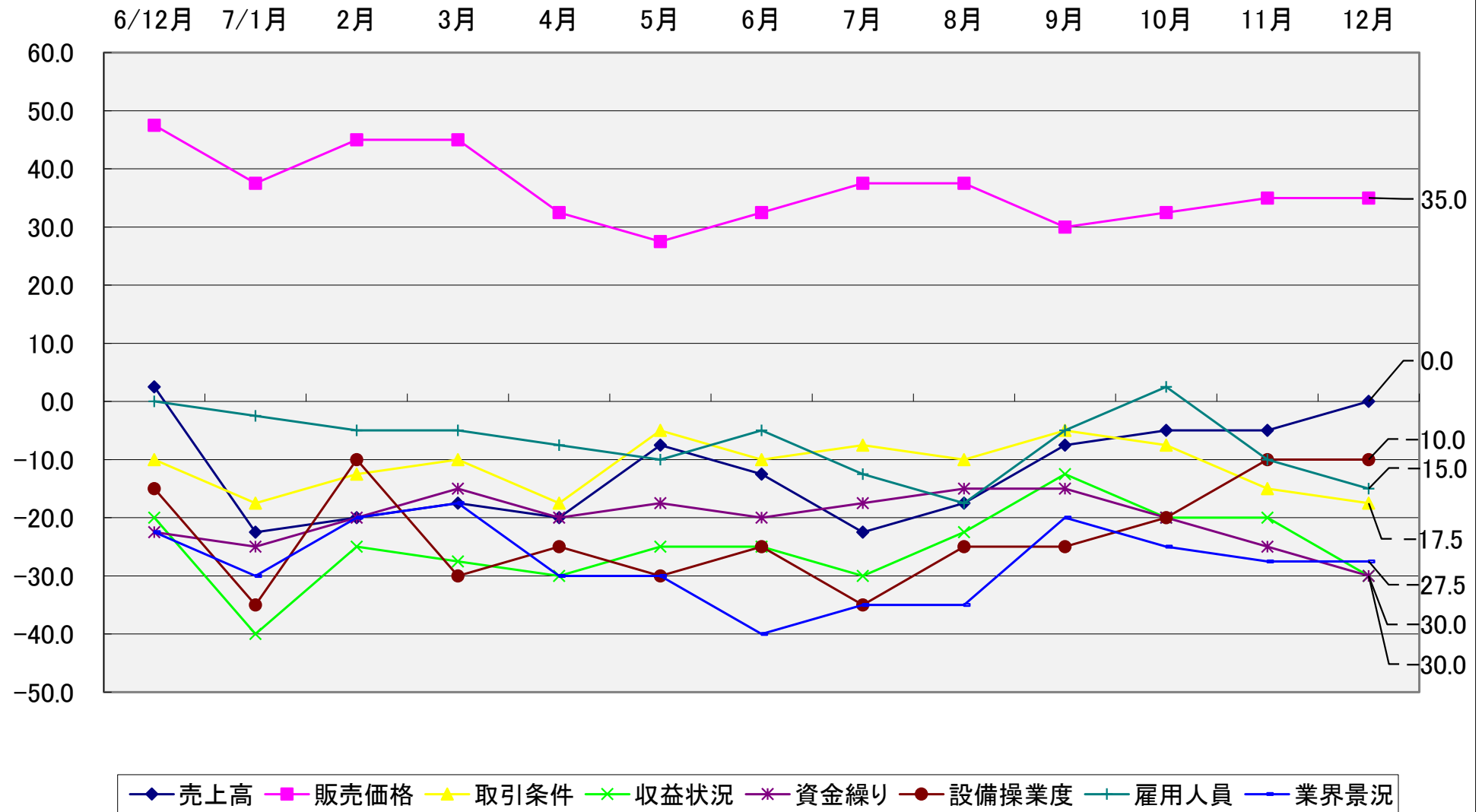
連絡員総数 40 名

	6/12月	7/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	増減
売上高	2.5	-22.5	-20.0	-17.5	-20.0	-7.5	-12.5	-22.5	-17.5	-7.5	-5.0	-5.0	0.0	5.0
販売価格	47.5	37.5	45.0	45.0	32.5	27.5	32.5	37.5	37.5	30.0	32.5	35.0	35.0	0.0
取引条件	-10.0	-17.5	-12.5	-10.0	-17.5	-5.0	-10.0	-7.5	-10.0	-5.0	-7.5	-15.0	-17.5	-2.5
収益状況	-20.0	-40.0	-25.0	-27.5	-30.0	-25.0	-25.0	-30.0	-22.5	-12.5	-20.0	-20.0	-30.0	-10.0
資金繰り	-22.5	-25.0	-20.0	-15.0	-20.0	-17.5	-20.0	-17.5	-15.0	-15.0	-20.0	-25.0	-30.0	-5.0
設備操業度	-15.0	-35.0	-10.0	-30.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-25.0	-25.0	-20.0	-10.0	-10.0	0.0
雇用人員	0.0	-2.5	-5.0	-5.0	-7.5	-10.0	-5.0	-12.5	-17.5	-5.0	2.5	-10.0	-15.0	-5.0
業界景況	-22.5	-30.0	-20.0	-17.5	-30.0	-30.0	-40.0	-35.0	-35.0	-20.0	-25.0	-27.5	-27.5	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする

企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

# 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



## 情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり、経営を圧迫する状態が続いている。昨年から米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。ホームページの更新のため、中央会の指導をいただき、現在更新作業を進めている。
		醤油味噌	販売先の業種にもよるが、お歳暮・ギフト関係は年末の需要期に対応し、生産が繁忙期を迎えている。問屋・メーカーは受発注の締め日が年々早くなり、その対応に追われることがある。日中関係の悪化により中国向け輸出に悪影響が出ないか心配である。今年の年間醤油出荷量の推計値が6,734kLと発表されたが、前年比で98.8%である。醤油・加工品類では消費者の簡便性を求めるニーズから堅調に推移しており、また加工業務用も仕出し、惣菜、弁当用のつゆ、たれ類が伸びた。
		他に分類されない食料品 製造業	103万円の壁が取り払われ、今年の年末調整において従業員の手取りが増えたが、賞与後の社会保険料の会社負担分が経営を締めつけている。商品売っているなら値上げもあるが、加工賃はそうもいかない。年収の壁だけではなかなか経営者側の利益には反映されない。
		製麺	12月6日、7日に香川県高松市でうどんサミットが開催され、19店舗と交流してきた。今年は五島列島でうどんのイベントが9月に開催される予定である。場所が遠いが、可能であれば参加する予定である。また、伊勢うどんの品評会ができれば伊勢うどんのレベルアップにつなげていきたいと考えている。
	木材・木製品	木材	建設コスト、輸送コスト等の高騰で新設住宅着工戸数は依然として不振が続く、国産材製品の荷動きも低調でコストに見合った価格転嫁が進んでいない。
		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原材料の確保が課題である。従業員の確保も困難で、機械や消耗品等、修理費の価格が高い。
	紙・紙加工品	古紙	12月の仕入れ量は段ボール・約92±6%位、新聞、チラシ・約88±6%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±6%位である。大きく紙の需要が減っており、その社会環境下での製品原紙の値上げをする事は大変難しい状況であるが、原紙の総売上高が業界全体の総収入であり原資なので、新年1月からの交渉成立を目指して頑張っていたきたい立場である。昨年同様に組合員1社を除き県内組合員の古紙集荷量は前年比大幅ダウンしている。金融も不動産も含め国内株式相場も活況で、私たちの様な実働で汗をかきながら働く者には、収入が増えるような社会情勢・環境にしていたき人口減少に歯止めがかかる事を切に望んでいる。ドル円為替レートの高下と相場感の結果、段ボール古紙の古紙輸出価格は国内古紙価格とほぼ同額で国内より気持ち高くなった様で、雑誌古紙価格は国内相場より高止まりしている。年末年始の事故や火事等は無く、古紙や古着の持ち去りやゴミ等の置き去り行為も例年通り発生し、より人に優しいより良い社会づくりのために超党派での資源リサイクル議員連盟への御入会をお願いしながら政治家・政党・関連各所様に法律制定と執行を望む。
	印刷	印刷	12月期においては、年賀状減少傾向が加速しており、昨年末のはがき値段の値上げから急加速した。2026年用の郵便はがき発行量においても前年比30%減となっており、印刷会社へ年賀はがき印刷を依頼する事業者・個人とも相当な数が減った。それ以外においては、次年度が役員改選時期になることもあり、新任者の候補を12月において相談した。
	窯業・土石製品	伊賀焼	円安物価高により原材料価格が高騰していることが各事業者の不安材料である。今後値上げができる状態までもっていけるかが不透明な現状である。政府の中小企業に対する政策がどのようになるか期待している。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、引き続き堅調な状況である。中心は自動車車載部品関係で、EV関連の受注が相変わらず好調であり、当面は安定した業況が見込まれる。
	一般機器	四日市市	仕入れ価格の高騰、人手不足、採用難と業界全体的にはあまり良い話を聞くことが少ない。多くの企業で生産性の向上と販売力の向上が求められている。今後の労働力人口の低減についてどう対応していくべきか悩ましい。
		津市	一つの部品ごとにみると昨年とあまり変わらない感じがするが、全体でみると売上は昨年より悪い、受注が落ちているといえる。内示の数量から確定の数量に変わったときに数が下がっているため、材料の調整に苦慮している。大手企業は賞与が100万円を超えたというニュースがあるが、中小企業ではそこまでの余裕はなく、厳しい状態が続いている。
		伊勢市	景況感は今よりは良くなっている。少しずつ注文は増えているし、売上も少しずつ増えている。原材料費のアップは認められているが、人件費のアップはなかなか認められない。自動車部品関連も工作機械関連も収益は良くなっている。新しい年に、新しい政権の経済対策に期待している。
	電気機器	鳥羽市	少し動きが見えてきて、稼働率が上がり始めたが、後半になって足踏みし始めた。期末にかけてまだ期待したいと思う。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
輸送機器	伊勢市	受注は一般機械器具で昨年比で減少、採算面も前年比で悪化し、利益はトントンである。しばらくは前年比で良好であったが、やはり不安定で力強さに欠ける。自動車部品は昨年比で同程度、若干の安定がみられるが、新規部品の貢献での売上増加であり、既存品は微減しており、今後減少傾向は変わらない。
小売業	青果	（野菜前半）各野菜は順調に入荷し、キャベツ、白菜、大根などはお買い得である。トマト、ミニトマトも出荷量が昨年並みに増え、価格も下がってきた。また、地場産のハウレン草、小松菜も安くなっている。北海道産玉ねぎ、ジャガイモは作況が芳しくなく高値傾向である。ブロッコリーは出荷が増え、安くなりそうである。（野菜後半）暖かい日があり雨も降ったことから生育が良く入荷も概ね順調である。ミニトマト、ブロッコリー、ハウレン草の入荷が増える見込みだが、年末の需要の高まりにより白菜、キュウリ、生シタケ他にも相場が上昇しそうな商品がある。正月用レンコン、ゴボウ、白菜は昨年並みである。（果物前半）みかん、早みかんは県内産を中心に高値で推移している。リンゴのサンフジは長野産、青森産を中心に、秋田産、岩手産の入荷もあるが価格は高止まりしている。イチゴは県内産を中心に順調に入荷し、やや安くなってきたが、クリスマスに向けて値上がりする。柿は岐阜産の富有柿が安定して入荷しているが、終盤になってきた。年末に向けてピークを迎える長野産の干し柿（市田柿）は大玉傾向で出来もよく甘くて品質も良い。（果物後半）みかんは県内産が中心であり、和歌山、愛知、静岡の各産地の早みかんは高値が続く。イチゴは県内産が中心でクリスマスまでは高値が続くが年末は少しずつ落ち着き、安くなる見込みである。
	自転車	大手百貨店のお歳暮商戦も儀礼的な需要が年々減る中、電子レンジで手軽に調理できる自宅用商品が強化されている。松阪牛、和田金の「すき焼き用上肉折詰」は大変人気である。一方、長引く物価高に伴う買い控えの影響を指摘する意見が多く、生活の足である自転車の買換えは遠く忘れられた存在である。先月に続き修理面でも売り上げは昨年比マイナス40%となっている。2026年新入学用の通学車に関して、一部のショップが早期展示会を開催するも、消費者の反応はまだ鈍く、今後は大型店やチェーン店へ流れるのではないかと考えられる。値段で動くか、アフターサービスに重点を置くか、客層が二極化に進むように感じる。
	電器	年末の追い込みにかかり、キャンペーンや個展（売り出しなど）で働きかけを行い去年よりは実績が上がってきているようにも感じる。省エネ家電購入キャンペーンも駆け込みがあったようで、単価アップにもつながったと思う。しかしながら映像関連が以前のように正月に向けて増加するなどの話も少なくなった。これからの状況は販売台数が目減りすると思うので、合わせた展開が必要と感じている。
	石油	ガソリン税の旧暫定税率を廃止するガソリン減税法が28日の参議院会議で可決成立した。ガソリン1L当たり25.1円分の旧暫定税率を12月31日に廃止する。軽油にかかる17.1円は2026年4月1日に廃止される。ガソリン減税法案は8月に当時の野党7党が国会に提出していた。11月に自民、日本維新の会、立憲民主、国民民主、公明、共産の6党が正式合意し、廃止時期を年末とする修正を加えた。ガソリンと軽油にかかる旧暫定税率廃止による減収額は国と地方合わせて年1.5兆円程度と見込まれている。石油販売業界としては暫定税率廃止に伴う価格の低下に伴う需要増を期待するものである。
	商店街	熊野市 12月に開催された朝市イベントは、熊野の養殖まぐろを広くPRする目的で今回4回目の開催を迎えた「熊野まぐろ祭り」をメインに開かれた。以前はふるまいがメインの同イベントであったが今回は格安販売とお買い物抽選会での賞品という形に切り替えられた。歳末の28日という事もありお正月用に求められる方も多く、また帰省された方も多く見られたようで多くの人出で賑わいを見せた。
サービス業	旅館	コロナ禍以前の12月は忘年会目的の日帰り、宿泊が多かったが、今年は当時の10%程度に落ち込んでいるのは、宿泊業のみならず飲食業全般に及ぶものである。宿泊客は先月より戻りつつあって、年末の12月25日頃より満館になっている施設が多かった。対前年同月比は110%～120%、19年同月比は80%～90%くらいだった。
	警備	景気が戻り、年末のイベント、店舗の警備の受注が増えた。
	総合工事業	2025年11月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べて微増となっています。内訳でみると、国、県発注の微増が要因となっています。4月から11月までのトータルでは県内企業の受注は全体で18%増となっています。
	内装工事業	12月も対前年同月比でマイナスとなった。年末年始の休みもあり、一時的な流れかもしれないが、物価高が進み、買控えの感が否めない。建築業界の景況は非常に厳しい状況である。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
建設業	電気工事	年々組合員数が減少するなか、当組合青年部会が会員拡大事業として、大手電材業者の営業所が毎年秋に開催する展示会にブースを出展し、来場する電気工事店の若手経営者へ入会を推奨する活動を行った結果、3事業所の新規加入があり、一定の成果が見られた。初めての試みで反省すべき点もいくつかあったが、改善して次につなげる良い機会となった。
	水道工事業（亀山市）	亀山市の委託業務について、量水器取替は終了した。引き続き、漏水修理を行っている。漏水の件数については減少傾向となっている。資材価格の状況については、まだまだ高止まりの状況にあり、工事価格も高くなる傾向にある。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	今のままではいけない。世代交代を切に願っているところです。
食料品	製麺	今年か来年で伊勢うどんの品評会の開催に向けて取り組んでいくため、相談に乗ってほしい。
一般機器	四日市市	賃上げ、社会保険料の増加等、なかなか収益の改善が難しい状況が続いているが、昨年に比べ仕事量は増えてきていると感じる。業界全体が厳しい中、販売価格を上げていく努力が必要と感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をお願いしたい。
建設業	総合工事業	人材確保が困難な状況は変わっておらず、経営上の最も大きな課題となっている。
サービス業	旅館	例年1、2月はオフなので以前実施されて好評で利用も多かった「みえ旅キャンペーン」の実施を早急をお願いしたい。売上を上げても、経費の高騰には追いついていないのが現状である。